

イタリアの会計基準設定主体(OIC)との二者間会合の概要

かわにし やすのぶ
ASBJ 常勤委員 川西 安喜

1. はじめに

2018年4月18日に、企業会計基準委員会(ASBJ)は、イタリアの会計基準設定主体(Organismo Italiano di Contabilità: OIC)の代表者との二者間会合をローマで開催した。本会合は、昨年に東京で開催された会合に続き、ASBJとOICとの間で開催された2度目の会合である。

ASBJからは小野委員長、小賀坂副委員長及び筆者が参加し、OICからはAlberto Giussani OIC 理事会副議長、Tommaso Fabi テクニカル・ディレクターほかスタッフが参加した。

2. 主な議題

会合では、ASBJとOICの活動の近況、欧州財務報告諮問グループ(EFRAG)が公表したディスカッション・ペーパー「資本性金融商品一減損及びリサイクリング」に対する予備の見解及び主要な新IFRS基準の適用上の課題を中心に議論を行った。

3. 議事概要

(1) ASBJ及びOICの近況

本セッションでは、ASBJとOICが、それぞれ近況について報告した。OICの代表者からは、個別財務諸表を作成する基礎となるイタリア基準をIFRSと整合性のあるものとするための取組みについて紹介があった。また、個別財務諸表を作成する際にイタリア基準に代えてIFRSを採用することが認められている中、IFRSが連結財務諸表を前提に作成されていることによる個別財務諸表作成の実務の困難さについて紹介があった。

(2) EFRAGのディスカッション・ペーパー

「資本性金融商品一減損及びリサイクリング」
EFRAGが公表したディスカッション・ペーパーについて議論を行った。議論の対象となった資本性金融商品に限らず、その他の包括利益(OCI)を用いる場合に、必ずリサイクリングしなければならないことについて、ASBJとOICの参加者の間で意見が一致した。また、資本性金融商品について、リサイクリングを行うことを前提としてFVOCIオプションを引き続き認める場合、減損が必要となることで意見が一致した。

(3) 主要な新 IFRS 基準の適用上の課題

次の新 IFRS 基準に関してそれぞれの国で認識されている適用上の課題について、情報交換及び意見交換が行われた。

- 収益認識
- リース
- 金融商品
- 保険契約

4. おわりに

イタリアと我が国とは、のれんの事後の会計処理やその他の包括利益の会計処理（リサイクリング）について考え方が近く、また、他国に比べ、個別財務諸表を重要視している点でも考え方が近い。欧州で行われている議論についても、イギリス、フランス、ドイツといった国々とは別の視点を持って参加していることが多く、勉強になることが多い。イタリアとの良好な関係は今後も続けていきたいと考えている。

